

中村・栗賀町は江戸（1603-1867）から明治時代（1868-1912）にかけ、北部の鉾山町と姫路港の間を行き来する人たちの宿場町の役を果たしていた。その最盛期には中村・栗賀町には 40 以上の店舗があった。「銀の馬車道(銀山の馬車道)」が 1876 年に完全に改良されたのでその地域を行き来することがより容易で速くなった。

今日、江戸時代からの建物は二つ残っている。竹内家住宅とかつての難波酒造である。江戸時代を思い出させる木製のパネルは馬車道にある公民館を覆っており、町のゴミステーションは昔の倉庫のように見せかけられている。また歴史的に興味深いのは栗賀のウマヤ(馬車の駅)で、そこで馬車が播但線からの旅人の馬車の乗継場所になっていた。その地域では「仙霊茶」、「ほうじ茶」、「粉茶」を含むいくつかの種類の茶を生産していた。5 月には訪問者は地元の茶畑で茶葉を摘むことができ、それから町に戻り天ぷらの衣をつけて揚げ、おいしいおやつにすることができる。